

# 第1回トルコ—日本・土木技術者シンポジウムの開催

フェロー会員 早稲田大学理工学術院 教授 濱田政則

2007年2月に土木学会のトルコ支部がイスタンブール市に開設された。現在、トルコ人の会員6名と在トルコの日本人会員5名によって構成され、支部長はイスタンブール工科大学のゼキ・ハシケル教授である。

土木学会トルコ支部とトルコ土木学会のイスタンブール支部の共催により、「The 1<sup>st</sup> Turk-Japan Collaborative Symposium of Civil Engineers」が6月5日、6日の両日にイスタンブールにおいて開催された。トルコ支部開設以来の支部としてはじめての公式行事であり、日本側からは筆者、田野久貴(日本大学)、アイダン・オメル(東海大学)、清野純史(京都大学)の4名が出席した。トルコ側からはイスタンブール工科大学などから約100名の研究者と実務技術者が参加した。

## シンポジウムの概要

地震学と地震工学分野における日本とトルコの協力関係は半世紀以上の長きにわたる。シンポジウムでは、まずトルコの地震学と地震工学の発展に尽力した日本人研究者、荻原尊礼、表俊一郎、力武常次、内藤多伸、梅村塊、久保慶三郎各先生の業績が紹介され、トルコ側から深い感謝の意が表明された。さらに日本側技術者によるトルコの社会基盤建設への貢献の事例として、黒海地域における水力発電所建設および第2ボスボラス橋の建設などがトルコ側より紹介された。

日本側参加者からそれぞれ以下のような内容のプレゼンテーションが行われた。濱田・世界の環境変化とそれに起因する自然災害、田野・トルコ中部バムカッレ郊外のババダーにおける地すべりと

対策、アイダン・カッパドキアの古代地下都市の安定性、清野・地震時における自動車走行の安全性。このほか、ハゼツテペ大学のウルサイ教授からは、AE法による地殻

応力の測定に関する日本大学と東海大学との共同研究、および大成建設から現在建設中のボスボラス海峡の鉄道トンネル工事の進捗状況が説明された。

## 現場見学

シンポジウムの関連行事として、第1ボスボラス橋梁およびゴールデンホーン橋などの耐震補強工事の見学会がIHI(旧・石川島播磨重工業)の協力によって行われた。マルマラ海峡に発生するマグニ

チュード約8の地震を想定した耐震補強で、塑性ダンパーによる振動エネルギー吸収装置や橋脚の鋼板巻き立ておよび落橋防止工が紹介された。写真4に示す鋼製のダンパーはイタリアで開発されたものである。トルコはEU加盟を目指し、ヨーロッパ諸国との貿易や技術交流を優先している一つの表れと考えられる。

## 海外支部の活動について

土木学会はすでに韓国、台湾、



写真1 ハシケル支部長(イスタンブール工科大学教授)による開会の挨拶



写真2 清野純史(京都大学准教授)によるプレゼンテーション



写真3 日本側参加者への感謝トロフィーの授与

イギリス、トルコ、インドネシア、フィリピン、タイ、モンゴルのあわせて八つの国と地域に支部を開設してきている。土木技術分野の国際協力を推進する観点からも、またわが国の大学や研究機関で土木工学を学んだ留学生との連携を維持するためにもこれらの海外支部の活動の活性化が期待される。

しかしながら、一部の支部の活動を除いては活動が低調であることは否定できない。わが国の多くの建設産業が今後本格的な海外進出を計画している。日本の先進的な技術を活用して、開発途上国を中心とした国々での社会基盤の整備に協力し、そのことにより世界の人びとの安全で安心な生活の構築に貢献することはわが国の建設技術者に課せられた重要な役割である。相手国における建設



写真4 第1ボスポラス橋耐震補強工事の見学

事業を安全に成功裏に遂行することはもちろんであるが、地域の技術者との交流を深め、歴史や文化を深く理解してコミュニティとの連携を図ることも求められている。海外支部設立の目的はこのよう

な技術者の活動を支援することにある。学会本部は組織的かつ継続的に海外支部の活動を活性化

する方策を計画し、実施する必要がある。

末筆ながら本シンポジウムを開催するにあたり、土木学会トルコ支部に大成建設より財政的支援をいただいたとの報告を受けた。ここに記して謝意を表する次第である。